

猛暑の夏も過ぎ去り、ようやく9月らしい季節となってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。今回のニュースレターは、インタビュー企画をお届けします。この企画を通して、日本語教師の先輩方が普段どのようなお考えをもって日本語教育に携わっているのか迫ろうと思います。記念すべき初回の先輩教師は、私にとって院生の先輩でもあり日本語学校の同僚でもある南波真知先生です！

突撃！日本語教師インタビュー！



「日本語をもっと学びたい!」と思ってもらえる教師を目指して

—— 本日はよろしくお願いいたします（笑）。

南波先生：よろしくお願いいたします（笑）。

—— 南波先生は日本語教師として働き始めて4年目だと思うのですが、普段どのような授業をされているのでしょうか。

南波先生：勤務し始めてからこれまで、初級クラスを継続して担当しており、『NEJ』という教科書を使った授業と、サバイバルレベルの日本語コミュニケーションの授業を行っています。また、現在、初中級クラスの学生にはJLPT N3対策の授業も担当しています。

—— なるほど。初級クラスをずっと担当されていてすごい！の一言なのですが、どのようなことをモチベーションにされているのでしょうか。

南波先生：そうですね、初級の授業は常に「むずかしさ」を感じています。4年目の今でも、自分の中で課題が見つかり、その課題に取り組むことがモチベーションになっています。なんとというか、点だったものを線にしようと考えているのですが、学生が得た日本語の知識を普段の生活の経験と結びつけて、学生の日本語の力を伸ばせるように・・・みたいなことを念頭に置いています。

—— 「点だったものを線にする」上で、授業ではどのようなアプローチをされているのでしょうか。

南波先生：例えば、授業の始めの声かけを意識して行なうようにしています。授業ですでに習った文法項目を使って答えられるような質問を問いかけることを意識しています。初級の場合は特にいきなり授業に入ると、学生がついていけないこともあるので、最初のうちは授業の始めの声かけを大切にしています。

—— なるほど、導入の工夫かあ。勉強になります！ところで、南波先生が日本語教師になろうと思った原点は何ですか？

南波先生：原点は大学時代の留学ですね。中国に1年間留学をしたのですが、そのときの世界各国の学生との交流が出発点になっています。日本語教師をする前には、国内や海外でさまざまな仕事ををしてきましたが、自分の中の軸は国際交流だと実感し、ことばを教えることに興味が生まれました。海外の人との交流が好きだという気持ちが現在の自分を支えていると感じています。

—— たしかに日本語教師は海外の学生といろいろなインタラクションがある仕事ですね。南波先生は、ご自身のご研究でも日米国際結婚家庭を対象としたインタビュー調査を行なっていると思うのですが、研究内容と日本語を教えることのつながりは何かあるのでしょうか。

南波先生：そうですね、国際結婚家庭出身の方々へのインタビューで、教師との関わり方が日本語学習に対するモチベーションをポジティブにもネガティブにも左右するという事例がありました。ですので、普段日本語教師として学生と接するときには、一人ひとりに対して真摯な姿勢で向き合うことを心掛けています。

—— そんなつながりがあったんですね！では最後に、これからどのような日本語教師を目指されているのか教えてください。

南波先生：なんだろう・・・。今は日本語を学びながら教えて、教えながら学んでいる状況なのですが、学生が「日本語をもっと学びたい!」と思うきっかけになれる教師になりたいと思っています。

南波真知 先生

神戸大学大学院国際文化学研究科
博士課程後期課程2年
コミュニケーションにて日本語非常勤講師
として勤務
2023年度国際文化学研究科日本語
教師養成サブコース修了



南波先生、お忙しい中、快くご協力くださり本当にありがとうございました！